

学年	教科等	題材名	日時
第1学年	図画工作科	やぶいた かたちから うまれたよ	平成29年6月19日(月)5校時
本実践の主張	<p>本時は破いた紙の形に着目して、破いた紙を並べながら、絵に表したいものについて考えることを目標とした授業です。本題材は形が最も重要な要素ですが、質感にも着目させることで豊かに発想できるようにしました。</p> <p>造形的な見方・考え方を働かせるために、質感が異なる紙を多数準備し、教師が破り方を演示する際に、紙の質感を呟くことで、紙による質感の違いに関心をもつことができるようにしました。また、子どもが紙を破る際、最初は目を閉じて、その後、目を開けて破るようにしました。そうすることで、視覚以外の感覚を研ぎ澄まして紙の質感を十分に味わうことができるようにしました。さらに、破った紙は一箇所にまとめて散りばめ、そこから絵に使う形を選ぶようにすることで、形・質感を比較しながら発想することができるようにしました。</p> <p>表現を探究する意識を高めるために、1つの作品にこだわりたい子どもへは、粘り強く探究する姿勢を称賛するようにしました。また、完成したことに満足感を得ている子どもへは、次の作品をつくるように声かけすることで、多作の中から自分の表現を探究できるようにしました。</p>		

教師が紙の質感を呟いて、質感への関心をもたせる。

数種類ある紙の中から、子どもに紙を選ばせ、
教師が目を閉じて触りながら呟く。

T: ガサガサしていて、硬いなあ。

C: ガサガサしているのかあ。ぼくも触って、
そして破ってみたいなあ・・・



造形的な見方・考え方を働かせる手立て

目を閉じて破らせ、質感を味わわせる。

C: ふわふわしていて、まるでティッシュ
ュみたい。

C: 今度のはザラザラしていて厚みもあ
って破けにくいな。



破った紙を一箇所に散りばめ、比較しやすいようにする。

C: 破った紙が雪みたいに見えるよ。そっちの
紙とこっちの紙なら、こっちの紙の方が表
面がピカピカしていて雪にぴったりかも。



1つの作品にこだわりたい子どもへのかかわり

T: 紙を並べ替えて試行錯誤しながら、
夢中でがんばっているなあ。この姿
を次の時間の最初に全体に紹介し
よう。今は、そっとしておこう。



完成したことに満足している子どもへのかかわり

C: 先生、見てください！ できました！

T: こりゃすごい。破いた形がおうちに見えたんだね。まだ、他
にもおもしろい絵がつかれるかな？ 例えば、画用紙の色を
変えてもつかれるかな？



表現を探究する意識を高める手立て

紙の質感を捉えて発想に生かす子どもの姿が見られました。しかし、色を抜いた紙のみで行った方が、質感に意識が向かいやすかったと思いました。また、多作を促すことは表現を探究し続けるために有効でしたが、1つの作品に没頭する子どもの姿を称賛することは、今後の授業の始めに行うと効果的ではないかと思いました。

御意見・御質問はこちら(研究部アドレス)

miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

授業実践計画

○ 指導計画（4時間）

- | | |
|---|---------|
| (1) 紙を破ったり、並べたりしながら表したいものについて考える。 _____ | 1時間（本時） |
| (2) イメージを広げながら工夫して絵に表す。 _____ | 2時間 |
| (3) 「きらきら鑑賞会」を開く。 _____ | 1時間 |

○ 本時の目標

破いた紙の形に着目して、破いた紙を並べながら、絵に表したいものについて考えることができる。

○ 指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり
<p>1 紙を破ることのおもしろさにふれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教師による演示 <p>2 紙をおもしろい形に破る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目を閉じて ○ 目を開いて <p>3 本時の学習内容について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時のめあて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">破いた紙を並べて、絵にしよう。</div> <p>4 破った紙を並べて、表したいものについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 並べ方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 中心に1枚 ・ 散らばるように ・ つながるように 等 ○ 向き <ul style="list-style-type: none"> ・ 上下左右 ・ 裏表 等 ○ 形 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大小 ・ 長短 ・ ぎざぎざ ・ 丸、四角 等 ○ 質感 <ul style="list-style-type: none"> ・ つるつる ・ ざらざら ・ がさがさ ・ つやつや 等 ○ 紙の種類 <ul style="list-style-type: none"> ・ 画用紙 ・ トレーシングペーパー ・ 新聞紙 ・ クラフト紙 ・ 花紙 等 <p>5 本時の学習についてふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 発想のきっかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師が紙を破りながら、紙の質感をつぶやくことで、子どもが紙による質感の違いに関心をもつことができるようにする。 ○ 目をつぶって紙を破らせることで、視覚以外の感覚を研ぎ澄まして、紙の質感を十分に味わうことができるようにする。 ○ 質感の異なる紙を多種類準備して、自由に破ることができるようにすることで、それぞれの紙の質感の違いを目と触覚の両方で味わうことができるようにする。 ○ 破った紙の中からお気に入りの形を選ばせて、画用紙の上に置かせる。そのときに発する子どもの言葉を拾うことで、絵に表したいという思いを高めることができるようにする。 ○ 破った紙は一箇所にまとめて散りばめるようにする。そこから絵に使う形を選ぶようにすることで、形・色・質感を比較しながら発想することができるようにする。 ○ 発想できない子どもには、その子どもが選んでいる形とは別の形を選ばせる、台紙を交換させる、形・色・質感について言葉かけをすることで、発想することができるようにする。 ○ 自分の表現を探求し続けることができるようにするために、次のような手立てをとる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1つの作品にこだわりたい子どもへは、粘り強く探求する姿勢を称賛する。 ・ 完成したことに満足感を得ている子どもへは、次の作品をつくるように声かけすることで、多作の中から自分の表現を探求できるようにする。 ○ 本時の絵に至ったきっかけをふりかえらせることで、形に着目して発想できたことを実感できるようにする。

○ 学びの本質に向かっている子どもの姿

破ってできた細長い形が首みたい、表面のボコボコがうろこに見えたから、ドラゴンをつくったよ。早くできたから、もっとおもしろいものをつくろうと、2つ目にも挑戦しているよ。この紙のギザギザは歯みたいだから使ってみようかな。【発想や構想の能力】

